
記者提供資料(平成21年2月16日)

教育委員会事務局社会教育部文化財課文化財係 谷田・前田

電話078-322-5798 FAX078-322-6148

神戸市指定文化財の指定等の答申について

本日開催の神戸市文化財保護審議会において、神戸市指定文化財の指定につき、下記のとおり答申されました。

記

1. 答申概要

別添1のとおり

2. 指定等の経過について

平成20年7月31日、平成20年12月12日

神戸市文化財保護審議会に指定候補物件について諮問。

平成21年2月16日

神戸市文化財保護審議会から、指定候補物件・登録抹消物件について答申。

今回の答申を受けて、今月17日に開催予定の教育委員会会議の議決を経て告示されます。

3. 神戸市文化財保護審議会委員名簿

別添2のとおり

平成 2 0 年度神戸市文化財保護審議会答申概要

1 以下の 8 件について、有形文化財・史跡名勝天然記念物として指定することを適当と認める。

種 類			件 数
指 定	有 形 文 化 財	建 造 物	1
		彫 刻	2
		工 芸 品	2
		考 古 資 料	2
	史跡名勝天然記念物	史 跡	1
合 計			8

2 以下の 1 件について、登録有形文化財の登録を抹消することを適当とする。

文化財の名称	文化財の種類	所在地	抹消の理由
上山家住宅	登録有形文化財	北区淡河町淡河 1 5 6 6	文化財としての保存・活用ができなくなったため

平成20年度神戸市指定文化財答申物件一覧表

種 類				名 称	数 量	所 在 地
				所有者（管理者）		概 要
指 定	有 形 文 化 財	建 造 物	1	旧 乾 家 住 宅	1 件	神戸市東灘区住吉山手5丁目1637番
				国（財務省） （財務省近畿財務局 神戸財務事務所）	主屋1棟 ガレージ1棟 土蔵2棟付廊下 塀174.42m	<p>（建築年代） 主屋：昭和10年（1935）12月27日上棟（棟札） ガレージ：昭和11年（1936）頃 土蔵2棟付廊下：昭和11年（1936）頃</p> <p>（構造形式） 主屋：RC造、一部木造、二階建、地下1階 ガレージ：RC造、一階建 土蔵2棟付廊下 土蔵：RC造、二階建 付廊下：木造一階建</p> <p>（建築面積） 主屋：1階床面積380.00㎡（延べ床面積716.29㎡） ガレージ：42.00㎡ 土蔵2棟：95.60㎡（付廊下：21.21㎡）</p> <p>（設計者）渡邊節建築事務店 （施工者）竹中工務店 （関係資料）棟札1枚</p> <p>（特 徴） 旧乾家住宅は乾汽船の創業者乾新兵衛の自宅 で、棟札から主屋は昭和10年（1935）12月27 日の上棟であることがわかる。昭和11年（1936） 頃に諸建築が整備されたと考えられる。 主屋はL字形を呈し、RC造を基本とするが 北側の南北棟の北半部を木造としている。 主屋は洋風を基調としながら巧みに和洋を折 衷し、かつ接客空間と居住空間をうまく調和さ せている。外装・内装・建具等の造作にいたる まで当初材を良く残し、保存状態も良好である。 重厚さの中に繊細なデザインを巧みに取り込む 建築家渡邊節の住宅建築の代表作といえる。 主屋の西側には2棟の土蔵がある。RC造で あるが、外観は伝統的な土蔵形式で、廊下に面 して鉄扉を構えている。ガレージ内部にはタイル を貼り、小屋裏はコンクリートの打ち放しと している開口部は6枚の鉄製の扉板を吊ってい る。東・北・西には塀を構え、外面に細い素焼 きのタイルを貼り、頂部には赤色の洋風瓦を並 べている。 和館を滅失しているが、塀・門の屋敷構え、 ガレージ等の付属棟、主屋・土蔵等の建物に加 え、庭園等の外構も良く残し、敷地全体として 阪神間の昭和戦前期の邸宅の屋敷構えを良く伝 える貴重な存在である。</p>

種 類				名 称	数 量	所 在 地
				所有者（管理者）		概 要
指 定	有 形 文 化 財	彫 刻	1	木 造 <small>こま</small> 狛 <small>いぬ</small> 犬	1 対	大阪市天王寺区茶臼山町 1 - 8 2（大阪市立美術館寄託）
				(宗)太山寺		<p>(制作年代) 平安時代後期～鎌倉時代（12世紀～13世紀）</p> <p>(法 量)(単位はcm) 阿形<small>あぎょう</small>：高さ 56.7 面長 15.5 面巾 19.8 吽形<small>うんぎょう</small>：高さ 56.0 面長 13.4 面巾 20.3</p> <p>(材 質)不明</p> <p>(特 徴) 2 軀ともに木造で、内割りはない。古色を残し、彫眼である。 口を開けた阿形・獅子と、口を閉じ一角を有する吽形・狛犬の一对からなる。 阿形は、頭・体の幹部を一材から彫出し、胴部やや後方よりに別材を寄せている。体幹部には2箇所の木心があり、幹と枝分かれした部材を巧みに用いている。 吽形は胴部ほぼ中央で二材矧ぎとし、腹部には薄い別材を、右脇腹にも小材を矧いでいる。 いずれも各所に白土下地の痕跡があることから、当初は彩色が施されていたと考えられる。 木造三所権現をご神体とする太山寺・鎮守社(現観音堂)の内陣に安置されていたもので、当初はこの三柱の神像のための守護獣として造立されたのであろう。獠猛さよりも、ある種のかわいらしさを感じさせる作風で、三所権現と造立時期が近いことを思わせる。胸を張り、やや頭をあげて開口する獅子に対し、角を誇示するかのように少し頭を下げ気味に閉口する狛犬のバランスは絶妙で、この時期の作例として高い水準にあるといえ貴重である。</p>

種 類				名 称	数 量	所 在 地
				所有者（管理者）		概 要
指 定	有 形 文 化 財	彫 刻	2	木造 ^{でんさんしよごんげん ぎ ぞう} 伝三所権現坐像	3 軀	神戸市西区伊川谷町前開 2 2 4
				(宗)太山寺		<p>(制作年代) 平安時代後期～鎌倉時代(12世紀～13世紀)</p> <p>(法 量)(単位は cm) 木造女神坐像(伝吉野権現) 像高 23.4 面長 9.5 面巾 5.9 膝張 15.6 木造男神坐像(伝熊野権現) 像高 24.5 面長 7.6 面巾 5.9 膝張 15.6 木造女神坐像(伝白山権現) 像高 26.5 面長 7.0 面巾 6.1 膝張 17.1</p> <p>(材 質)不明</p> <p>(特 徴) 3 軀ともに一木造で、内割りはない。古色を残し、彫眼である。 いずれも表面に白土地彩色が残り、彩色像であったことがわかる。伝吉野権現像の背面には丹地に黒で描かれた丸文に五弁花を付け立て式に散らした当初の彩色が良く遺っている。伝熊野権現像の着衣にも白緑地に白色で丸文が付け立て式に描かれている。 女神像の髪は頭頂で一髻をつくり、残りを垂髪とし、両手は胸前・衣の下で拱手する。男神像は髪を中央で左右に分け、両耳あたりで美豆良風に束ね、先端は胸前へ垂らす。左手は膝上で、右手は屈臂して持物(亡失)を執る形となっている。頭部を大きく作り、童子形が強調されている。 いずれも側面から見ると、頭部をやや前方へ突出させた姿勢である点が共通している。 前述の狛犬と同じ太山寺・鎮守社(現観音堂)に安置されていたものである。当初の彩色文様が比較的良く遺っており、造形感覚とともに平安時代後期の仏像に通じる穏かな趣が示されている。別件の狛犬とともに太山寺の神仏習合の信仰の実態を知る上で貴重な作例といえる。</p>

種 類				名 称	数 量	所 在 地
				所有者（管理者）		概 要
指 定	有 形 文 化 財	工 芸 品	1	なんばんじんおうかもんまきえくら 南蛮人桜花文蒔絵鞍 (押部谷小学校旧蔵)	1 背	神戸市中央区京町 3 5
				神 戸 市 (神戸市立博物館)		<p>(製作年代) 天文 7 年 (1538) (刻銘：天文七年二月日)</p> <p>(法 量) (単位は cm) 全長：37.5 前輪高 27.7 前輪幅 31.3 後輪高 26.5 後輪幅 38.0 居木長 29.5 居木幅 10.3</p> <p>(材 質) 前輪・後輪：サクラ科 居木：サワグリ（シロタモ）もしくはミネバ リ（ハンノキ）</p> <p>(特 徴) 両輪の正背面に海や磯と呼ばれる起伏を削ら ない海無しの水干鞍である。 前輪の正面に 5 人、後輪正面に 6 人の南蛮人 を薄肉高蒔絵で表し、両輪の内側及び居木の表 面に平蒔絵で桜花散らし文を表している。 漆は居木裏を除く表面に薄い漆下地を付け、 黒漆を塗り、朱漆の上塗りを施している。居木 裏には生漆をしみこませた摺漆がみられる。 全面に摩擦した痕跡があるため、文様上の蒔 絵粉（金粉）はほとんど失われているため現状 は文様を描いた透漆が露出した状態である。ま た、両輪の縁は金梨地であったが、これもほと んど摩滅し痕跡を留めるのみとなっている。 制作年代は鞍の形態から刻銘の年代と考えら れるが、この年代には南蛮人は渡来（天文 12 年（1543））していないことから、文様は後世 に書き加えられたものであることがわかる。 南蛮人の顔の表現や衣装などは 16 世紀後半 から 17 世紀前半に盛行した「南蛮屏風」にみ られる表現に酷似している。また、鞍という特 殊な画面に人物図を巧みに収めている点は、絵 画的にも秀逸で絵師の技量が推し量られる。</p>

種 類				名 称	数 量	所 在 地
				所有者（管理者）		概 要
指 定	有 形 文 化 財	工 芸 品	2	銅 製 經 箱 (有馬温泉寺伝来)	2 合	神戸市中央区京町 3 5 (神戸市立博物館寄託)
				(社)有馬温泉観光協会		<p>(製作年代) 内箱：南北朝時代から室町時代前期 外箱：南北朝時代から江戸時代前期</p> <p>(法 量)(単位は cm) 内箱 縦 27.2 横 17.7 高 12.7 外箱 縦 28.1 横 18.8 高 14.0</p> <p>(材 質) 内箱 銅製鍍金 外箱 銅製(錫の含有率が高い)</p> <p>(特 徴) 内箱は鍛造、外箱は鑄造によって造られたパーツをそれぞれ組み合わせて制作されている。 両箱とも蓋の中央部に蓮華座とその上に短冊形を表し、短冊形の中心に「金紙金字如法妙典、大智大非両部曼荼」と鑿彫りしている。短冊形の左右には蓮華唐草が毛彫りされている。蓮華はインド以来聖なるものを生み出す「生命創造の華」として信仰されており、蓮華に彩られたデザインは納められた経典の尊さを目に見える形で表現したといえる。 鑿で丁寧に彫られた内箱の蓮華唐草文は室町時代の金工品にみられる文様と類似する表現であることから、南北朝時代から室町時代前期の制作であると、外箱は製造技術が異なることから年代差が認められ、やや時期が下るものと考えられる。遺品の少ない中世の銅製経箱の残存例として、有馬関連の縁起の深縁性も含めて貴重なものである。 有馬には平安時代末の僧・尊恵が閻魔王宮から法華経を贈られ、温泉寺の如法堂の下に埋めたとされ、享禄元年(1528)の大火後に発見されたこの経箱と内部の経典ではないかとして温泉寺の名物品になった。その後、経典は江戸時代の大火で焼失し「焼け経」として錦の袋に納められていた。経箱と焼け経は、その後行方不明となっていた。平成 19 年にオークションに出品され、現所有者に落札され有馬に帰ることになったものである。</p>

種 類				名 称	数 量	所 在 地
				所有者（管理者）		概 要
指 定	有 形 文 化 財	考 古 資 料	1	しらみずひさごづか 白水瓢塚古墳出土品	一括	神戸市西区糺台6丁目西神中央公園内
				神戸市 (神戸市埋蔵文化財 センター)		<p>(出土品) 268点</p> <p>1.銅鏡1面 (内訳)画文帯神獸鏡1面</p> <p>1.碧玉製腕輪形石製品13点 (内訳)車輪石4点 石釧9点</p> <p>1.鉄製品7点 (内訳)素環頭刀1点 鉄槍3点 刀子2点 鉄斧1点</p> <p>1.玉類 143点 (内訳)翡翠製勾玉5点 琥珀製勾玉1点 碧玉 管玉31点 ガラス小玉106点</p> <p>1.土師器 5点 (内訳)壺1点 土師器残欠 4点</p> <p>1.埴輪 97点 (内訳)円筒埴輪7点 楕円筒埴輪4点 朝顔 形円筒埴輪3点 埴輪残欠83点</p> <p>1.第1埋葬施設棺底玉類転写 2点 (内訳) 碧玉製管玉27点 ガラス製品1点 ガラス小玉 約1700点付着 碧玉製管玉1点 ガラス小玉116点 付着</p> <p>(時 代)古墳時代前期</p> <p>(特 徴)</p> <p>白水瓢塚古墳は、古墳時代前期に築造された明石川流域最古の前方後円墳である。墳丘は2段築成で、墳丘裾部とテラス面に円筒埴輪列が確認されている。埋葬施設としては後円部中央と、前方部に合計2基の粘土槨が存在する。</p> <p>平成13・14年度に墳丘の範囲確認調査により、前方部の第2埋葬施設と後円部の第1埋葬施設の盗掘坑の調査を行った。翌平成15年度には後円部の第1埋葬施設の調査を行い、多数の貴重な副葬品が出土した。また、古墳周辺部における調査によって、これまでに5基の埴輪棺を確認している。</p> <p>出土品のうち、第1埋葬施設からの出土品は古墳時代前期中ごろの副葬品として典型的な構成を成している。また埴輪についても古墳時代前期の埴輪の変遷を考える上で貴重な資料である。これらの出土品は、明石川流域における古墳時代前期の様相を考えるための資料のみならず、全国的にみても重要な資料であり、神戸市指定文化財にふさわしいものと考えられる。</p>

種 類			名 称	数 量	所 在 地
					概 要
指 定	有 形 文 化 財	考 古 資 料	2	塩田北山東古墳 出土品	一括
			神戸市 (神戸市埋蔵文化財 センター)	<p>神戸市西区糺台6丁目西神中央公園内</p> <p>(出土品) 104点</p> <p>第1埋葬施設 1. 銅鏡1面(三角縁天王日月獸文帯三神一仏四獸鏡) 1. 鉄製品3点(内訳)鉄斧1点 刀子1点 ヤリガンナ1点 1. 玉類 77点(内訳)碧玉製管玉8点 ガラス小玉69点 1. 第1埋葬施設部分切り取り遺構1点</p> <p>第2埋葬施設 1. 鉄製品8点(内訳)鉄剣1点 鉄斧1点 刀子1点 ヤリガンナ1点 鑿1点 鉄製品残欠3点 1. 碧玉製紡錘車形石製品 1点</p> <p>第3埋葬施設 1. 鉄製品2点(内訳)刀子1点 ヤリガンナ1点</p> <p>〔墳丘〕 1. 土師器残欠 11点</p> <p>(時 代) 古墳時代前期</p> <p>(特 徴) 塩田北山東古墳は、有馬川と武庫川が合流する地点の西側で、東西に連なる丘陵上に位置する全長35mの前方後円墳である。 埋葬施設は後円部中央に2基と後方に2基の合計4基の粘土槨が確認された。 第1埋葬施設は全長6.9mの割竹形木棺を納めた粘土槨で、三角縁神獸鏡と管玉・ガラス小玉・鉄斧・ヤリガンナ・刀子が出土した。第2埋葬施設は全長4.7mの割竹形木棺を納めた粘土槨であり、棺内からは鉄剣、鉄製工具類、碧玉製紡錘車形石製品が出土した。第3埋葬施設は全長4.7mの割竹形木棺を納めた粘土槨である。棺内からは鉄製工具類が出土した。第4埋葬施設は墳丘主軸に斜交する粘土槨で、副葬品は出土しなかった。 第1埋葬施設から出土した三角縁神獸鏡は直径22.5cmで、三角縁天王日月獸文帯三神一仏四獸鏡と分類される鏡である。現在同範鏡は存在せず、新発見の型式である。仏像が描かれている三角縁神獸鏡は、これまで5種8面が存在するが、この鏡で6種9面目となる。 第2埋葬施設から出土した鉄剣は、長さ48.5cm、幅1.9cmと非常に細身のものである。 当古墳は、時期の判明しているものとしては旧有馬郡域では唯一の古墳時代前期の前方後円墳である。またこれらの出土品は、旧有馬郡域の古墳時代前期の様相を考えるための資料のみならず、全国的にみても重要な資料であり、神戸市指定文化財にふさわしいと考えられる。</p>	

種 類				名 称	数 量	所 在 地
				所有者（管理者）		概 要
指 定	史 跡 名 勝 天 然 記 念 物	史 跡	1	端 谷 城 跡	21,624.29 m ²	神戸市西区櫛谷町寺谷字西ノ谷字北谷 992-10 他
				前山純三・山口英 雄・代場 宏・藤本 つや子・前山一郎・ 増田 晃・福山 孝・山口正信・観音 堂		<p>(面 積) 21,624.29 m²</p> <p>(時 代) 室町時代後期～安土桃山時代</p> <p>(特 徴)</p> <p>端谷城跡は、明石川の一支流、櫛谷川の上流右岸、標高 110～140mの丘陵上に存在する。鎌倉時代後期から室町時代後期にかけて櫛谷保を治めた衣笠氏の居城で、曲輪・堀切・切岸・横矢掛・土塁などが残り、戦国時代の山城の姿を今に伝えている。</p> <p>城の北側の尾根を馬蹄形に切断し、本丸・二の丸・三の丸・西の壇・土塁・小曲輪などが設けられ、総構えの構造となっている。城の東西と南側は、自然の河川によって防御されている。</p> <p>発掘調査より、二の丸では時期を異にする掘立柱建物 2 棟、柵、土塀状遺構等の存在、二の丸・三の丸間の箱堀には土橋は存在しなかったこと、西の壇には瓦葺の礎石建物、空堀と土塁が存在したこと、本丸では、物見台に瓦葺建物が存在し、それに接して土蔵と考えられる瓦葺の塙列建物があったことが判明した。塙列建物からは 13 領以上の鎧(胴丸)が発見され、城郭における土蔵の使用形態と城内での武器の保管状態が明らかになり、落城後の城の破却(城割り)の様相を推定する手掛かりが得られた。</p> <p>端谷城本丸から出土した軒瓦から、鶴林寺(加古川市)・性海寺(西区)などの東播磨の寺院と密接な関係を保っていたと考えられ、本丸の二つの建物の年代は 1560 年代と推定できる。本丸出土の戎文鬼板と宝袋文鬼板は、城には珍しい特殊な瓦であるが、同時期のものと推定される。15 世紀に遡る遺物も発見されているが、大きく城の造作が行われたのは、戦国時代に入ってからの可能性が指摘されている。</p> <p>神戸市の「人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例」に基づき、平成 12 年度に櫛谷町寺谷里づくり協議会と寺谷自治会が中心となり、市民、行政関係者も参加して環境整備が行われた。現在地域の自治会が中心となって端谷城管理会を組織し、管理会による定期的な管理体制が整っている。</p> <p>端谷城跡は歴史的にも学術的にも重要な遺跡であり、かつ地域住民による管理が行われている例としても重要であり、当遺跡は、神戸市の指定史跡としてふさわしいものと考えられる。</p>

神戸市文化財保護審議会委員名簿

会長

副会長

(平成21年2月現在)

	担当部門	氏名	本務	性別
1	建築 (古建築)	山岸 常人	京都大学大学院工学研究科准教授	男
2	建築 (近代建築)	有村 桂子	いるか設計集団代表取締役	女
3	建築 (近代建築)	島田 敏男	独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 平城宮跡発掘調査部遺構調査室室長	男
4	建築 (伝統的建造物)	安田 丑作	神戸大学名誉教授 こうべまちづくりセンター・まちづくり学校長	男
5	美術工芸品 (絵画)	塩出 貴美子	奈良大学文学部教授	女
6	美術工芸品 (彫刻)	安藤 佳香	佛教大学文学部教授	女
7	書跡・典籍	馬田 綾子	梅花女子大学文学部教授	女
8	民俗芸能	谷林 正紹	兵庫県立伊丹西高等学校教諭	男
9	史跡・考古 (古墳時代)	和田 晴吾	立命館大学文学部教授	男
10	史跡・考古 (弥生時代)	工樂 善通	大阪府立狭山池博物館館長	男
11	記念物 (庭園)	西 桂	兵庫大学非常勤講師	男
12	記念物 (植物)	武田 義明	神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授	男